

古屋敷遺跡現地説明会資料

平成27年11月14日
島根県埋蔵文化財調査センター

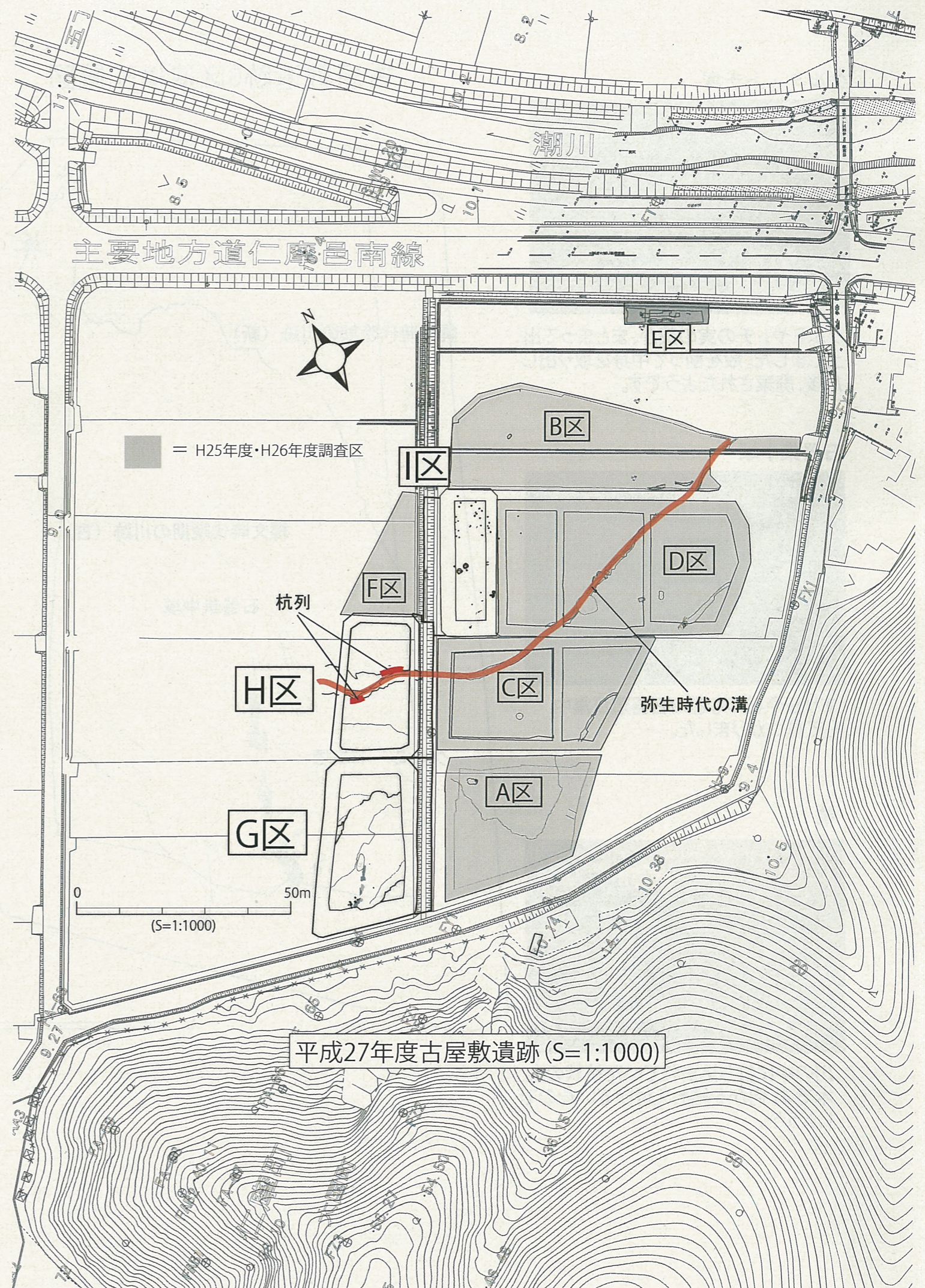
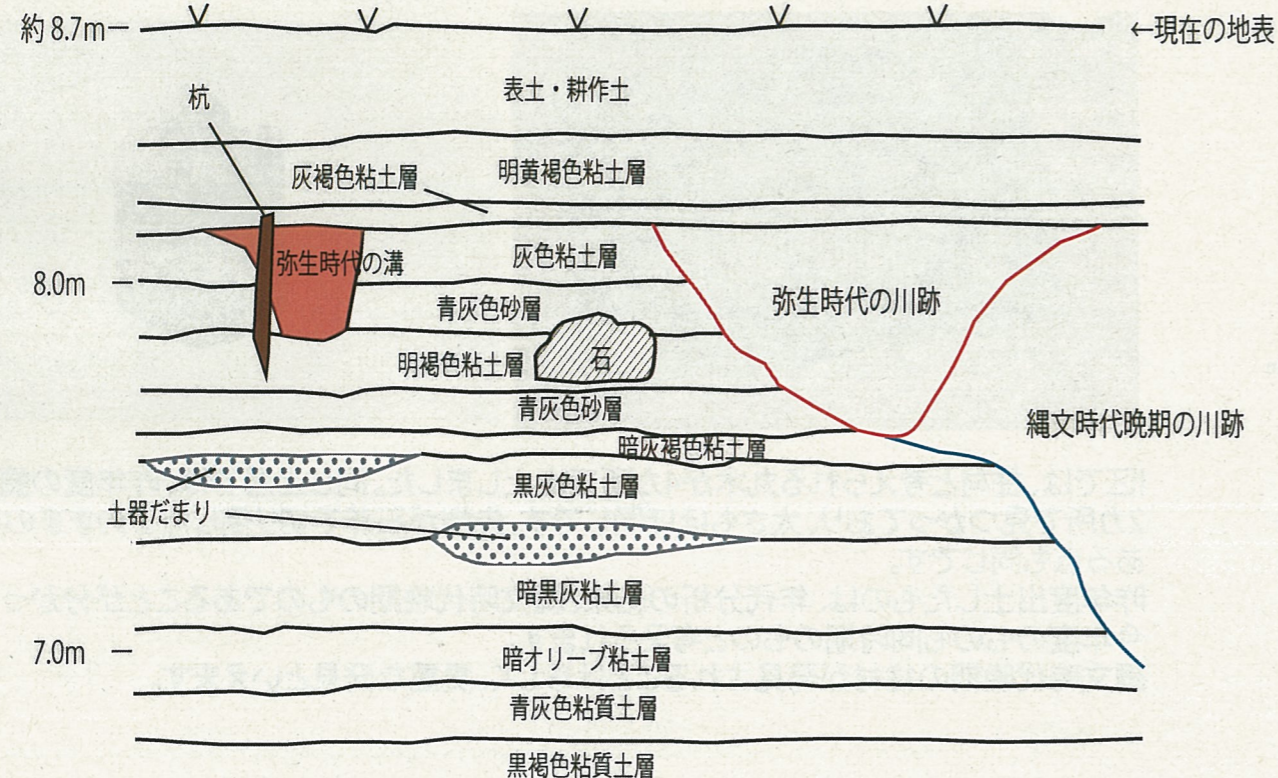
1. 古屋敷遺跡（大田市仁摩町大国）

・仁万平野に位置する、縄文時代後期（約4300年前）から弥生時代前期（約2300年前）を中心とする遺跡です。平成25年度から3年間の調査で、山陰地方では例のない縄文時代晩期の木棺墓やトチの実などを水にさらした遺構、県下2例目となる彩文土器など、多様な遺物や遺構が出土しています。

2. 今年度の調査成果

- ・弥生時代前期の水路と考えられる溝を検出しました。一部では、丸木や割板を用いた護岸が見つかっています。
- ・縄文時代晩期（約2600～2500年前）のクルミ・トチの殻をまとめて捨てた跡を発見しました。殻の特定部分が割れており、実をたたき割って中身を取り出した後、捨てたと考えられます。
- ・縄文時代晩期の50箇所を超える地床炉（じしょうろ・火を焚いた痕跡）や多数の土器・石器類が出土しています。
縄文時代晩期を中心に、この地に断続的に集落が営まれていたことが明らかになりました。

古屋敷遺跡の土層模式図



平成27年度古屋敷遺跡 (S=1:1000)

クルミ・トチ塚



クルミやトチの実の殻が、まとまって出土しました。殻を割って中身を取り出した後、廃棄されたようです。

石器集中域



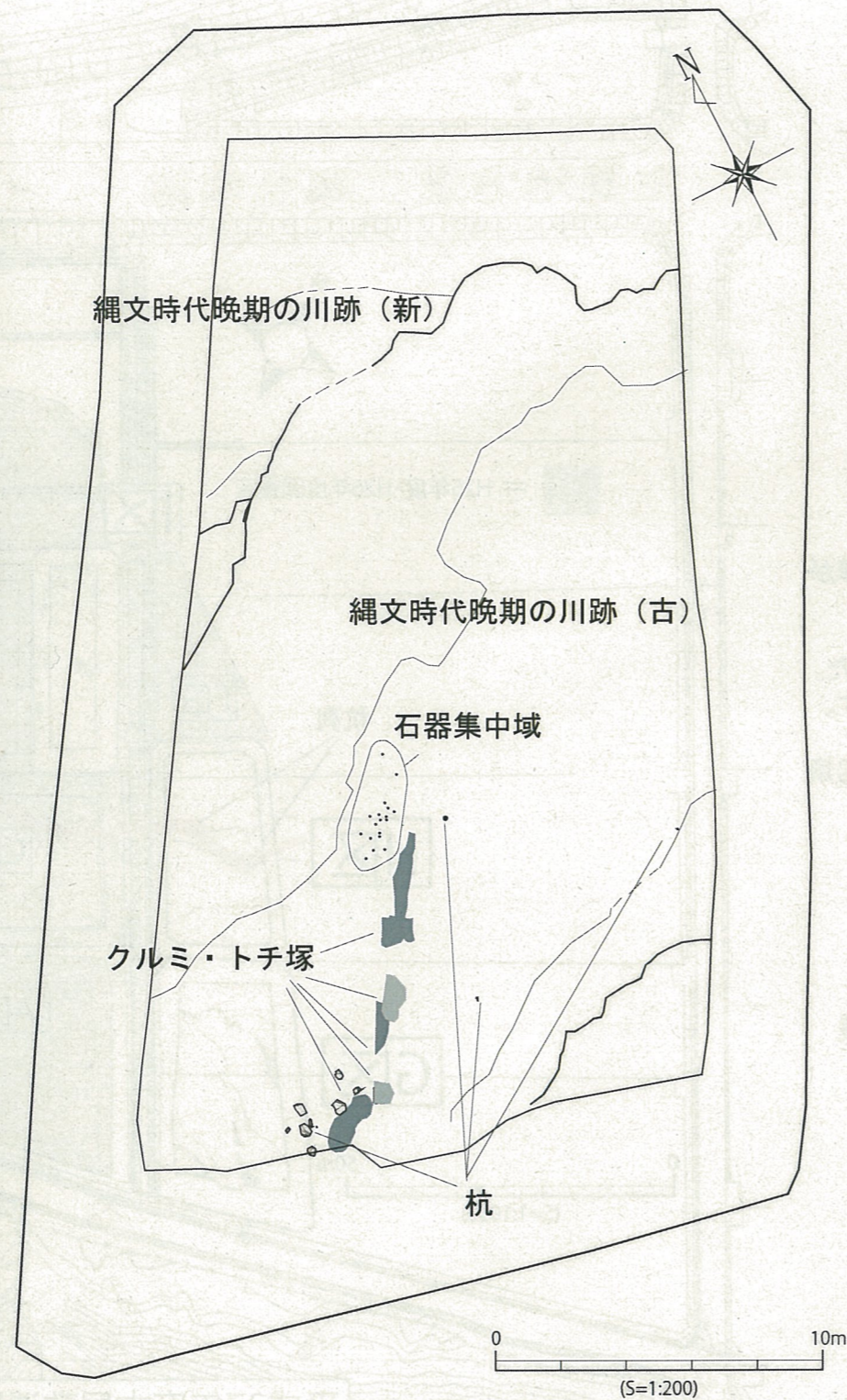
すり石や石斧などの石器類が集中して見つかりました。

杭



川の中に打ち込まれていた杭状の丸木です。何かを結わえ付けていたのでしょうか。

古屋敷遺跡G区遺構配置図



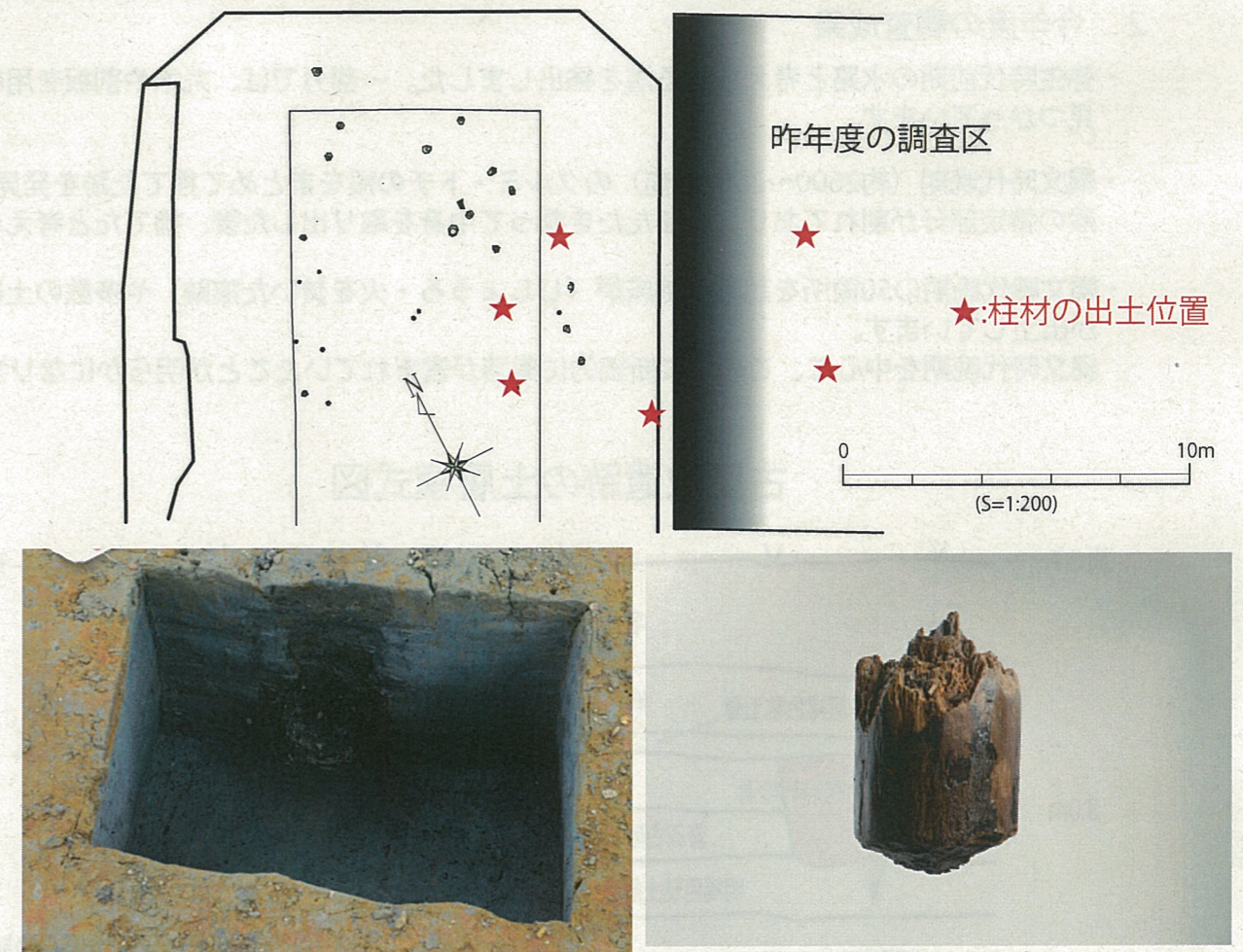
古屋敷遺跡H区弥生時代前期の溝

弥生時代前期の溝で、部分的に杭を打ち込んで、護岸工事を行っています。

杭には丸太を割って板状に加工したものと、丸太の先端をとがらせたものの二種類が使われています。



古屋敷遺跡I区遺構配置図



I区では、柱材と考えられる丸木が4カ所で出土しました。同じ土層では、昨年度の調査でも2カ所で見つかり、太さもほぼ同じです。先端が石斧で切り倒したそのままの状態である点も同じです。

昨年度出土したものは、年代分析の結果、縄文時代晩期のものであることが分かっており、今年度のもも同時期のものと考えられます。縄文時代晩期の柱材が発見されることは珍しく、貴重な発見といえます。